

小野川 章男さん

(上山神楽太鼓師匠)



楽しんでもらうのが一番

日が暮れ、社殿に灯りがともると、リズムカルな太鼓の音が聞こえてきた。

大正地区の「上山神楽太鼓保存会」のメンバーが、車座になってバチを振るう。この日は「四万十大正あゆまつり」での公演を控え、本番を想定した稽古を重ねていた。

御年88歳の小野川章男さんは、上山神楽太鼓の師匠であり、創始者でもある。とはいえ、前に立って指導するわけではなく、穏やかにほほ笑みながら後輩たちに交じって太鼓を打つ。軽やかなバチさばきに、長年打ち込んできた風格がにじむ。

「やっぱり、見た人に楽しんでもらうというのが一番の願望です。なるだけ、励まして笑って喜んでもらえるように仕上げないかと思うてます」

小野川さんが神楽太鼓に出合ったのは、梶原町松原地区で営林署に勤めていた20代のころ。そこで見た「津野山神楽」の太鼓の音色と、その場の雰囲気魅了された。「どうしてもこれは身につけたい、そう思いまして」。何度も見て

聞いて独学で習得し、地元へ持ち帰った。

大正地域はかつて「上山郷」、明治時代には「東上山村」と呼ばれた。その名にちなみ、上山神楽太鼓保存会を有志と立ち上げた。以来、40年近くにわたり、神祭や地域のイベントなどで演奏と舞を披露してきた。

現在の会員は13人で、最年少は3歳。毎週月曜の夜、河内神社(大正)に集まり、練習に励む。

「基本のリズムは誰でも覚えやすいもので、難しさはありません。あんなにちっちゃな子でもね、『やりたい』と言って来てくれます。年代が変わってもできるだけ引き継いでもらいたいと思います」と小野川さん。

後輩たちへの思いを尋ねると、笑って答えてくれた。「みんなが一生懸命に技術を身に付けようと努力をさせていただいておりますので、私が不足に思うところはないです。はっはっはっ」



未来の
waza!!

町にはこんな waza も

走リ幅跳びで全中に初出場! 野中 咲花さん 窪川中学校3年



小学2年生から陸上を始め、女子走り幅跳びで今年の全国中学校体育大会(全中)に初出場した。惜しくも上位入賞はならず、「レベルの高さを感じました」。大舞台の経験を次に生かし「高校のインターハイで全中のリベンジをしたいです」と意欲を燃やす。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。
ちよいwaza!!は随時募集中!▶

